

# あすなる 通信

第10号 [2011年8月1日]

発行人：望月智行 編集人：経営管理室

医療法人財団 献心会  
川越胃腸病院

〒350-0034 埼玉県川越市仙波町2-9-2

電話：049-225-6888 URL：http://www.kib.or.jp/

## 肥満大敵！

今や世界中で肥満が大きな社会問題に発展してきました。わが国でも近年目立って肥満者が増加しており、「メタボリック症候群」なる概念が健康診断にも取り入れられてきました。しかし多くの方々は、「肥満は病気である」との認識は薄く、そのこと自体がもっとも大きな問題点となっています。肥満は単なる体重過多ではありません。立派な病気(疾患)と考えるべきで、肥満が引き起こす病気として、高血圧、糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、心血管障害などはよく知られるようになってきました。

一方、肥満と消化器をみてみると、もっとも一般的に遭遇するのが「脂肪肝」ですが、これにも最近、「脂肪性肝炎」なる病気が含まれていることが分かり、放置すると肝硬変から肝臓に発展する危険性があることも報告されています。そのほかにも肥満関連の消化器疾患には、胃食道逆流症、逆流性食道炎、胆石症、大腸ポリープ、大腸がん、膵



医療法人財団献心会  
理事長  
望月智行



夏の隠岐ノ島

炎、膵臓がんなども挙げられています。しかもこれらはますます増加していくと予想されており、消化器だけでなく、心血管系・内分泌系疾患を含めて、将来の最大の課題に発展していく可能性が大と思われれます。

肥満の原因には遺伝的要因もありますが、多くの場合は食生活と運動不足、ストレス環境などが考えられます。ますます複雑化した社会、それも厳しい競争社会で生きている方々にとっては、規則正しい食生活を維持することは容易でないことも理解できませんが、このままではますます肥満関連疾患が増えることが考えられます。

肥満の解消には、まずは一日3回の規則正しい食事と腹八分目の食量、高カロリー食を控え、バランスの良い食餌内容、早食いと夜遅くの飲食禁止などが原則です。肥満の方の食事をみると、早食い、朝食抜き、夜遅い飲食、脂肪性の高カロリー食、外食や飲酒の機会が多いなどの共通した原因が見られます。加えて車社会でますます運動不足となり、肥満の解消には、まずは肥満の危険性をよく理解すること、強い決意と長く継続できる、無理のない減量作戦が必要です。ダイエットは立派な医療行為ですから、やせ薬や市販の情報に踊らされることなく、医師や栄養士に相談して計画的に進めることが重要です。

# 分子標的薬とは

薬剤部主任 野村真美



近年、分子標的薬が幅広い分野で使用されるようになり、特にがん薬物治療においては欠かせない存在になっていきます。当院でも、主に大腸癌治療で分子標的薬を使用しております。

分子標的薬とは特定の分子に作用する薬で、がん、リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎などに使用されていますが、今回は、がん治療における分子標的薬についてご説明します。

分子標的薬と従来の抗がん剤との違いはどこにあるのでしょうか？ 従来の抗がん剤は、がん細胞が無秩序に細胞増殖を繰り返す特性に着目し、細胞に傷害を与えたり細胞分裂を妨げたりする作用を持つ成分を検索して開発されています。その作用点はDNAや微小管など正常細胞にも共通するものであるため、正常細胞にも影響を与えることが多く、脱毛、粘膜障害、神経障害、吐き気等の副作用が高頻度で発現してしまいます。

そこで、がん細胞に特有の部分に作用する薬であれば、副作用が少なく、より効果が高い薬になると考え開発されたのが、分子標的薬です。当院で用いている分子標的薬はアバスタチン®（ベバシズマブ）、アービタックス®（セツキシマブ）、ベクティビックス®（パニツムマブ）などです。\*

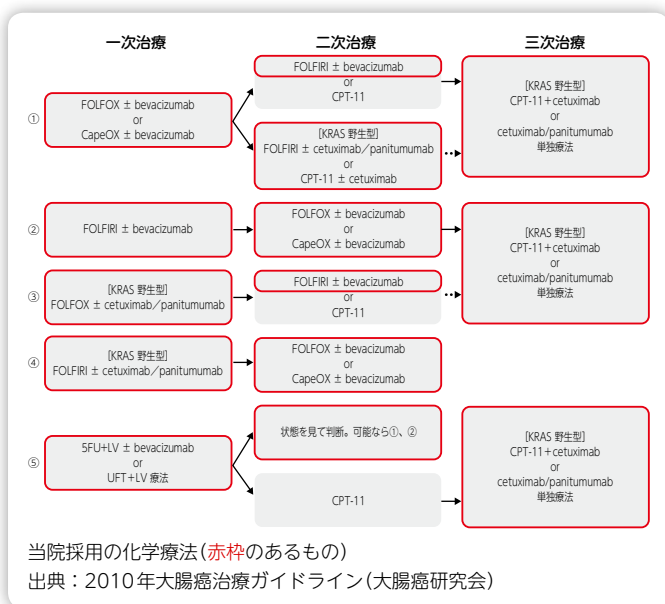
アバスタチン®は、がん細胞が血管を新しく作るために必要な血管内皮成長因子（VEGF）を抑える抗VEGF抗体で、がん細胞の成長に必要な栄養を届けにくくする作用と、抗がん剤ががん細胞に届きやすくする作用（がん細胞が作った血管の影響で血管の周りの圧力が上がり、抗がん剤が血管から滲出しにくくなることを抑える作用）により、がん細胞の成長を抑えます。

アービタックス®とベクティビックス®は、がん細胞に過剰に存在している上皮成長因子受容体（EGFR）を阻害する抗EGFR抗体で、がん細胞の増殖、転移などを促す情報伝達を阻害することで治療効果を現わします。ただし、細胞内の情報伝達には複数のタンパクが関与しており、その一部（KRAS）に遺伝子変異があると、EGFRから信号が送られなくても増殖、転移を促す信号が途中から発せられてしまい、抗がん効果が得られないことが分かっています。そのため、治療開始前にKRAS遺伝子検査を行い、治療効果が期待できる方にのみ、投与を行っています。

分子標的薬は副作用が少ない薬として期待されていますが、残念ながら多様な副作用が発現しています。がん細胞に特徴的な分子を標的に開発されたのですが、その分子が正常細胞の一部に存在するためです。VEGFは血管に存在するので血栓、出血、創傷治癒など血管に関係する副作用が発現することがあります。EGFRは皮膚に存在するので、皮疹、皮膚乾燥、爪囲炎などが高頻度で発現します。

このような問題はありますが、分子標的薬の誕生により、がん薬物療法の治療効果は飛躍的に向上しました。2010年大腸癌治療ガイドライン（大腸癌研究会）では、切除不能・進行再発大腸癌に対して、一次治療、二次治療、三次治療とともに分子標的薬を使用することを推奨しており、当院でも大腸がん治療ガイドラインに沿った治療を行っています。

\* ①～⑤が商品名で、（ ）内は成分名を表しています。



## 副院長就任のご挨拶

藤野幸夫



2011年6月より副院長に就任いたしました。2002年4月から外科部長として勤務させていたでいており、今年で10年目になりました。この間、無事業務ができましたのは院長先生はじめ皆様のおかげでございます。

当院は職員満足度、患者満足度の向上とスマートな病院経営を極限まで追求する比類なき集団であります。ですから新入職員は当院の環境や方針に慣れるまでかなり時間を要します。これまで多くの環境の変化に柔軟に対応してきたはずの私でさえ、入職から5、6年はアウエーで仕事しているような感覚もありました。最近ようやくホームの感覚で働けるようになった気がしております。これは当院が妥協のない成熟度の高い組織であるが故と考えております。副院長というポストに就きまして多少の戸惑いもありますが、これまで積み上げてきた当院の「院風」を大切に維持しながら、さらに進化させてゆきたいと存じます。当面の課題として病院ホームページの改善、看護支援も含めた電子カルテのバージョンアップ、外来化学療法センターの構築などがあげられます。これらを解決しつつ、地域専門病院としての使命を果たしていきたいと思えます。

これまで通り全力で頑張りますので、宜しくお願い申し上げます。

## 消化器内視鏡センター長就任のご挨拶

紫藤和久



2004年4月より検査部長として川越胃腸病院に勤務しておりましたが、2011年6月より附属消化器内視鏡センターの初代センター長を拝命いたしました。当センターの昨年度の検査件数は上部内視鏡約11000件、下部内視鏡5000件以上と、国内、県内でも有数の数を誇っております。

日本消化器内視鏡学会指導施設に認定されており、また消化器内視鏡専門医も7名(うち5名は指導医)在籍し、内視鏡技師は14名とスタッフも充実しており、全スタッフが一丸となって技術向上に努めております。

いまだ内視鏡検査は大変で辛いというイメージが強いようですので、患者様がなるべく安楽な状態で受診でき、かつ確実な内視鏡検査・治療の実施に心掛け、また継続して受けていただけるように努力しております。

日本における消化器内視鏡検査の水準は世界のトップクラスであり、すでに導入している最新の診断方法(特殊光検査、拡大内視鏡など)を今後も存分に活用して、胃がんや大腸がんの早期発見・早期治療に貢献していきたいと考えております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 患者様の声

医療サービス対応事務局  
中西多恵子  
(医事課アシスタントチーフ)



医療サービス対応事務局には、毎日たくさん「患者様の声」が寄せられます。いただいた様々なお声は当院にとって貴重なご意見として、当事務局にて一つひとつを患者様の立場に立ち、真剣に検討をしています。

すぐに対応できることは、できる限り迅速に改善・実施をしていますが、中には設備・システムなど長期間にわたり検討が必要なもの、改善案の最終決定までに時間を要するものもたくさんあります。

その中のひとつに「アナウンス関連」のお声があります。「館内放送(面会時間のご案内)の内容を、もう少しやわらかい表現にした方がよいのでは」「留守番電話のアナウンスが聞き取りづらい、アナウンスが長い」「呼び出しマイクの声が大きい、小さい、放送が重なる、滑舌が悪い、語尾が聞き取りづらい」など、アナウンスに関する「患者様の声」は最近特に増加しています。

面会時間のご案内と留守番電話のアナウンス内容については、すでに変更し改善しましたが、呼び出しマイクについては、改善に向けてスタッフに注意を促し現在も日々検討を重ねています。

今後当事務局ではあらゆる「患者様の声」を大切に、患者様の立場に立った改善を進めてまいります。

## 黒糖ミルクアイス

(8個分)

### 【材料】

黒糖 ……………50g  
牛乳 ……………400ml  
生クリーム ……100ml  
ゼラチン ……………1.5g  
水 ……………50ml

### 【飾り用】

黒糖(分量外)・クラッカー

### 【作り方】

- ①—牛乳と黒糖を合わせ、火にかける。
- ②—煮立つ前にゼラチンを入れ、火を止めてゼラチンが溶けるまでかき混ぜる。それを冷ましておく。
- ③—生クリームを7分立てに泡立てる。
- ④—冷めた②に、泡立てた生クリームを加える。
- ⑤—大きめのバット(20 cm×20 cm位)に、④を薄く流し入れ冷凍庫で凍らせる。
- ⑥—薄く凍った⑤をミキサーに入れ、攪拌し再度冷凍庫で凍らせて完成。
- ⑦—仕上げに黒糖(分量外)やクラッカーで飾るとさらに美味しくなります。



当院で毎月行っております「ほっとタイムサービス」\*でお出しした、お菓子のレシピを公開します。

\*ほっとタイムサービス：入院患者様を中心に、「ご家族やお見舞いのお客様へ」提供しているお茶とお菓子のサービス

## ほっとタイムサービス

栄養科(管理栄養士)  
内山亜希子



## 看護の日に寄せて

理事兼看護部長  
池田五十鈴



21世紀の高齢化社会を支えるためには、家庭や地域、そして職場で、看護の心・ケアの心・助け合いの心を私達一人ひとりが分かち合うことが必要です。こうした心を老若男女問わず、広く国民の誰もが育むきっかけにしたいと、1990年(平成2年12月)、当時の厚生省により「看護の日」が制定されました。「看護の日」が5月12日に制定されたのは「近代看護の確立者」と言われたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日が5月12日であったことと、その時点で既に「国際看護婦デー」が5月12日であったことに因ります。日本に於いて「看護の日」誕生への強い原動力になったのは、市民や有識者(秋山ちえこ氏・日野原重明氏など)からなる「看護の日の制定を願う会」の活動でした。

現在では全国で約3000ヶ所の医療機関が、市民のための看護のイベントとして、「看護の日」に「施設見学」や「ふれあい看護体験」などを企画しています。当院でも「看護の日」に当たり、昨年に引き続き地域社会への貢献として「病院でのお仕事体験」と銘打ち、川越第1小学校児童JRCサークルの皆さんにボランティア活動を体験していただきました。実際には、血圧測定や足浴、薬剤配布、事務業務、院内整備等を体験し、子供たちの喜々とした表情から、患者様には思いがけない幸せな一時が届けられました。

## 医療ガス安全 管理委員会

整備課主任  
浜辺聖



医療ガス安全管理委員会は、診療に関わる酸素や各種麻酔ガスの管理、吸引などのガス関連設備について、委員会活動を通して安全を確保し事故を防止する事を、活動の目的としています。

例えば患者様に直接関わる医療ガス設備としては、病棟のベッド頭上に設置されているアウトレットと呼ばれる酸素・吸引装置があります。これらは、手術室を初め外来処置室、内視鏡センター、放射線科等にも設置されています。

院内全域の酸素・吸引ポンプ設備の年次保守点検は毎年6月に実施し、消耗部品交換や修理・改修を行い、不備の無いように備えています。環境測定を必要とする領域においては、測定を年2回実施しており、良好な状態にあると判断される「第1管理区分」という評価を得ております。

更に、医療ガス設備に関わる新設・増設工事、部分改造等については、記録を作成し保管管理するとともに、院内に周知を図っております。

以上のような活動は、医療法施行規則などの法に基づいて行われております。

医療ガス安全管理委員会では、患者様、職員の方の健康と安全を重視し、これからも定期自主点検や改善活動をしっかりと行い、快適な療養空間と安全な機能を維持・提供出来るよう、管理してまいります。